



平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月14日

上場会社名 株式会社インタートレード 上場取引所 東
 コード番号 3747 URL <http://www.itrade.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾崎 孝博
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 丸山 與一 (TEL) 03-3537-7450
 四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第2四半期の連結業績 (平成25年10月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第2四半期	1,256	△7.3	△43	—	△45	—	△51	—
25年9月期第2四半期	1,355	△7.1	△16	—	△15	—	△3	—

(注) 包括利益 26年9月期第2四半期 △45百万円(—%) 25年9月期第2四半期 36百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第2四半期	△7.11	—
25年9月期第2四半期	△0.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
26年9月期第2四半期	2,970	2,208	2,208	2,208	74.3
25年9月期	3,131	2,253	2,253	2,253	72.0

(参考) 自己資本 26年9月期第2四半期 2,208百万円 25年9月期 2,253百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年9月期	—	0.00	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年9月期の連結業績予想 (平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	10.1	205	—	200	—	180	—	25.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

26年9月期2Q	7,444,800株	25年9月期	7,444,800株
26年9月期2Q	259,200株	25年9月期	259,200株
26年9月期2Q	7,185,600株	25年9月期2Q	7,184,700株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループの事業は、証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所取引システム等の開発及び保守運用を中心とする「証券ソリューション事業」、グループ経営管理ソリューションシステムの開発及び販売を中心とする「ITソリューション事業」、健康食品や化粧品等の生産・販売を行う「ヘルスケア事業」及び自己資金を運用する「自己資金運用事業」を行っています。

当第2四半期連結累計期間（以下、当第2四半期）においては、東京証券取引所一部上場銘柄の売買代金の上昇が止まったものの、前年同期比では約1.4倍となるなど、当社の主要顧客である証券業界の事業環境は比較的安定的状態を保ちました。

当第2四半期の当社グループ連結経営成績は以下の表のとおりです。

	平成25年9月期 (前第2四半期)		平成26年9月期 (当第2四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	
売上高	1,355	100.0	1,256	100.0	92.7
営業損失(△)	△16	—	△43	—	—
四半期純損失(△)	△3	—	△51	—	—

金融ソリューション事業、ITソリューション事業が売上高を減少させる中で前期並みのセグメント利益をあげた一方、ヘルスケア事業は増収減益となりました。自己資金運用事業は売上高が計上されておりません。

連結の売上高は前年同期比で7.3%減少の1,256百万円となり、それに伴い売上原価も10.9%減少の847百万円となりました。一方で、ヘルスケア事業を中心に広告宣伝活動や研究開発活動等の先行投資を積極的に行った結果、販売費及び一般管理費は前年同期から7.7%増加の452百万円となりました。

以上の要因から、当第2四半期は43百万円の連結営業損失となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

なお、各事業の売上高には、セグメント間の内部取引を含んでおります。

(金融ソリューション事業)

金融ソリューション事業の業績は当社金融ソリューション事業本部の業績であり、証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所外取引システム等の開発及び保守を行っています。

当第2四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高 1,067百万円（前年同期比87.7%）

セグメント利益 273百万円（前年同期比99.0%）

なお、金融ソリューション事業の売上内訳は、以下の表のとおりです。

<製品区分別>

	平成25年9月期 (前第2四半期)		平成26年9月期 (当第2四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
証券ディーリングシステム	835	68.6	706	66.2	84.6
取引所端末	107	8.9	125	11.8	116.7
外国為替証拠金システム	154	12.7	128	12.0	83.1
取引所関連システム	87	7.2	92	8.7	106.0
その他	31	2.6	14	1.3	44.9
合計	1,217	100.0	1,067	100.0	87.7

<売上区分別>

	平成25年9月期 (前第2四半期)		平成26年9月期 (当第2四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
パッケージ売上	65	5.4	35	3.3	54.1
システムインテグレーション売上	144	11.9	122	11.5	85.1
ライセンスビジネス売上	391	32.2	478	44.8	122.1
カスタマーサポート売上	614	50.5	430	40.4	70.1
合 計	1,217	100.0	1,067	100.0	87.7

- ・証券ディーリングシステムの売上高が大きく減少しました。平成25年9月期中に主要顧客の解約があったことが主な要因です。また、運用の効率化や価格競争への対応を目的として主力製品『TIGER TradingSystem』のASP化を進めており、これが売上高と費用両面の減少の要因となっています。
- ・取引所端末、外国為替証拠金システム及び取引所関連システムは安定稼働を続けており、前年同期に近い売上高となりました。
- ・売上区分別では、システム導入及び改編時の初期費用であるイニシャル売上（パッケージ売上及びシステムインテグレーション売上）が低い水準に留まっています。当社が最大の売上高を記録した平成21年9月期においては年間2,757百万円のイニシャル売上がありましたが、以降、ASP化の進展に伴うハードウェア売上の急激な減少、同業他社との価格競争によるパッケージ価格及び受託開発価格の下落が発生し、技術の進展と業界内の競争の両面からイニシャル売上をあげる事が難しくなっています。
- ・導入したパッケージ製品に付随して毎月発生するランニング売上（ライセンスビジネス売上及びカスタマーサポート売上）は前年同期比91.3%となりました。前述した、証券ディーリングシステムにおける主要顧客の解約やASP化の進展が主な要因です。
- ・費用面においては、ASP化の進展に伴い、データセンター利用料やハードウェア保守料等の固定費を積極的に削減しました。また、業務効率化によりエンジニアの保守工数を削減し、外注費や労務費を削減しました。結果として、セグメントの費用は146百万円減少しました。

(ITソリューション事業)

ITソリューション事業の業績は、当社ITソリューション事業本部と連結子会社である株式会社ビーエス・ジェイ（以下「BSJ」）の業績であり、グループ経営管理ソリューションシステムの開発及び保守を中心に、エンジニア派遣等も行っています。

当第2四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高 84百万円（前年同期比54.4%）
セグメント損失 54百万円（前年同期は52百万円のセグメント損失）

前年同期にBSJにおいて大型プロジェクトの検収が集中し、その反動で当第2四半期は前年同期比54.4%の売上高となりました。前期に開発したグループ経営管理ソリューション『GroupMAN@IT』やIT運用管理サービス『GadiesMAN@IT』の本格的な業績への寄与は当第3四半期以降の見込みであり、当第2四半期の売上高は84百万円に留まりました。

費用面においては、業務フローと受注契約の見直しによる労働生産性向上施策の進展及び前年同期の大型プロジェクトに伴う外注費発生反動の結果、外注費及び人件費が大きく減少し、セグメントの費用は前年同期から32.8%減少の139百万円となりました。

以上の要因から、当第2四半期のセグメント損失は54百万円となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業は当社ヘルスケア事業本部と連結子会社である株式会社らぼおぐ（以下「LBG」）、株式会社健康プラザパル（以下「パル」）、株式会社ジーコレクション（平成26年4月1日付で「株式会社ビューティールカン」に商号変更）の業績であり、健康食品や化粧品等の生産・販売を行っています。

当第2四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高	106百万円（前年同期は7百万円の売上高）
セグメント損失	107百万円（前年同期は53百万円のセグメント損失）

平成25年2月にパルを子会社化した結果、売上高は前年同期から99百万円増加しました。

費用面においては、他セグメントからの人員異動に伴い人件費が増加したほか、先行投資に近い性質を持つ広告宣伝費が増加しました。LBGにおいては製品ラインナップの拡充に向けた研究開発を、パルにおいては『ビューティールカン Cu!』シリーズ等のオリジナルブランド拡販のため広告宣伝を積極的に行いました。

以上の要因から、107百万円のセグメント損失となりました。

(自己資金運用事業)

自己資金運用事業の業績は、連結子会社である株式会社トレーデックスの業績です。

当第2四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高	—
セグメント損失	1百万円（前年同期は12百万円のセグメント損失）

当第2四半期においては、金融ソリューション事業との相乗効果を狙った運用手法と運用結果の相関の解析に重点を置いた結果、上記の業績となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期末の総資産額（負債及び純資産の合計額）は、前連結会計年度末に比べ160百万円減少し、2,970百万円となりました。

自己資本比率は74.3%、当座比率（当座資産÷流動負債、短期的安全性の指標）は427.9%であり、安定性の高い財務体質となっています。

(資産)

総資産合計2,970百万円のうち、現金及び預金と有価証券（MMF等）の合計1,742百万円が58.7%を占め、高い手元資金比率を維持しています。その他は受取手形及び売掛金253百万円（構成比8.5%）、投資有価証券231百万円（構成比7.8%）、棚卸資産（商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）182百万円（構成比6.2%）等です。

(負債)

負債合計761百万円のうち、借入金（短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計）が491百万円を占めています。その他は買掛金97百万円等です。

(純資産)

純資産合計2,208百万円の内訳は、資本金1,478百万円、資本剰余金794百万円、利益剰余金△28百万円、自己株式△95百万円等となっています。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ272百万円減少し、1,742百万円となりました。

各活動によるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、117百万円の支出（前年同期は27百万円の収入）となりました。税金等調整前四半期純損失は48百万円、現金支出を伴わない連結損益計算書上の費用である減価償却費、ソフトウェア償却費、のれん償却額及びその他の償却額が合計59百万円ありました。

また、連結貸借対照表項目の主な増減は以下のとおりでした。

- ・ たな卸資産の増減額（△は増加） △104百万円
- ・ 売上債権の増減額（△は増加） △27百万円

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、61百万円の支出（前年同期は10百万円の収入）となりました。株式会社技術経営機構との資本提携に伴う投資有価証券の取得による支出30百万円、社内システムの整備による長期前払費用の増加を伴う支出20百万円が主な要因です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、93百万円の支出（前年同期は141百万円の収入）となりました。

長期借入金の返済による支出76百万円が主な要因です。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは金融市場の動向の影響を受ける事業環境にありますが、現時点では平成25年9月期決算短信記載の連結業績予想で想定したとおりの進捗をしており、連結業績予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,363,702	1,091,224
受取手形及び売掛金	225,574	253,488
有価証券	651,387	651,540
商品及び製品	24,062	87,573
仕掛品	46,509	76,243
原材料及び貯蔵品	7,543	19,029
繰延税金資産	45,800	45,800
その他	115,919	92,649
流動資産合計	2,480,499	2,317,550
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	180,533	180,533
減価償却累計額	△40,664	△51,569
建物及び構築物(純額)	139,869	128,963
機械装置及び運搬具	17,420	18,920
減価償却累計額	△2,571	△4,643
機械装置及び運搬具(純額)	14,849	14,277
工具、器具及び備品	386,206	386,454
減価償却累計額	△355,961	△363,816
工具、器具及び備品(純額)	30,244	22,637
リース資産	29,779	27,144
減価償却累計額	△12,956	△15,187
リース資産(純額)	16,823	11,956
有形固定資産合計	201,786	177,835
無形固定資産		
ソフトウェア	40,165	38,797
のれん	62,448	47,459
その他	1,247	1,247
無形固定資産合計	103,860	87,504
投資その他の資産		
投資有価証券	196,046	231,646
繰延税金資産	800	800
その他	163,759	170,769
貸倒引当金	△15,742	△15,742
投資その他の資産合計	344,863	387,473
固定資産合計	650,510	652,813
資産合計	3,131,010	2,970,363

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	107,811	97,840
短期借入金	105,000	105,000
1年内返済予定の長期借入金	153,936	146,586
リース債務	6,522	5,755
未払法人税等	17,453	8,826
その他	102,734	102,491
流動負債合計	493,457	466,500
固定負債		
長期借入金	309,431	239,813
リース債務	11,857	7,416
長期割賦未払金	60,604	46,977
退職給付引当金	1,767	1,229
固定負債合計	383,661	295,437
負債合計	877,118	761,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,478,433	1,478,433
資本剰余金	794,264	794,264
利益剰余金	23,025	△28,040
自己株式	△95,031	△95,031
株主資本合計	2,200,691	2,149,626
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	53,200	58,800
その他の包括利益累計額合計	53,200	58,800
純資産合計	2,253,891	2,208,426
負債純資産合計	3,131,010	2,970,363

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,355,301	1,256,513
売上原価	951,004	847,599
売上総利益	404,296	408,913
販売費及び一般管理費合計	420,387	452,662
営業損失(△)	△16,090	△43,749
営業外収益		
受取利息	477	376
受取配当金	200	2,000
受取手数料	4,261	265
その他	521	1,498
営業外収益合計	5,459	4,140
営業外費用		
支払利息	4,499	5,598
その他	0	240
営業外費用合計	4,499	5,839
経常損失(△)	△15,129	△45,447
特別利益		
違約金収入	21,421	—
特別利益合計	21,421	—
特別損失		
固定資産除売却損	1,602	—
事務所移転費用	—	2,576
特別損失合計	1,602	2,576
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	4,688	△48,023
法人税、住民税及び事業税	8,613	3,041
法人税等合計	8,613	3,041
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△3,925	△51,065
四半期純損失(△)	△3,925	△51,065

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△3,925	△51,065
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40,400	5,600
その他の包括利益合計	40,400	5,600
四半期包括利益	36,474	△45,465
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	36,474	△45,465
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	4,688	△48,023
減価償却費	25,544	23,895
ソフトウェア償却費	10,568	12,021
のれん償却額	9,726	13,941
その他の償却額	10,791	9,978
賞与引当金の増減額(△は減少)	15,600	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	—	△538
受注損失引当金の増減額(△は減少)	15,655	—
固定資産除売却損益(△は益)	1,602	—
移転費用	—	2,576
受取利息及び受取配当金	△677	△2,376
支払利息	4,499	5,598
売上債権の増減額(△は増加)	△6,370	△27,914
たな卸資産の増減額(△は増加)	△69,044	△104,730
その他の流動資産の増減額(△は増加)	5,102	24,080
仕入債務の増減額(△は減少)	△9,022	△9,970
未払金の増減額(△は減少)	△4,053	2,509
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△29	△619
未払消費税等の増減額(△は減少)	15,293	△7,881
その他の流動負債の増減額(△は減少)	2,050	7,244
その他	—	△175
小計	31,926	△100,385
利息及び配当金の受取額	677	2,375
利息の支払額	△4,546	△5,551
移転費用の支払額	—	△2,576
法人税等の支払額	△1,628	△11,048
法人税等の還付額	1,094	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,523	△117,186
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,374	△1,747
無形固定資産の取得による支出	△315	△10,653
投資有価証券の取得による支出	—	△30,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△4,348	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	23,528	—
長期前払費用の取得による支出	△4,194	△20,870
敷金及び保証金の回収による収入	2,808	3,882
その他	—	△1,875
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,104	△61,264

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	2,900	—
長期借入れによる収入	392,600	—
長期借入金の返済による支出	△224,607	△76,968
リース債務の返済による支出	△2,554	△3,229
割賦債務の返済による支出	△5,216	△13,626
配当金の支払額	△21,147	△49
財務活動によるキャッシュ・フロー	141,975	△93,873
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	179,603	△272,324
現金及び現金同等物の期首残高	1,816,461	2,015,089
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,996,065	1,742,765

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	証券ソリュー ション事業 (注)1	ITソリュー ション事業 (注)1	フードサー ビス事業 (注)2	自己資金運 用事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,217,064	130,876	7,360	—	1,355,301	—	1,355,301
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	24,765	45	—	24,810	△24,810	—
計	1,217,064	155,641	7,406	—	1,380,111	△24,810	1,355,301
セグメント利益又は損失 (△)	276,713	△52,147	△53,157	△12,527	158,879	△174,969	△16,090

- (注) 1. 「ITソリューション事業」の区分は、当社ITソリューション事業本部及び第1四半期連結会計期間より連結子会社となった株式会社ビーエス・ジェイにおいて行っている事業です。
 2. 「フードサービス事業」の区分は、連結子会社である株式会社らぼおぐにおいて行っている事業です。
 3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△174,969千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に当社の管理部門に係る費用であります。
 4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	金融ソリュー ション事業 (注)1	ITソリュー ション事業	ヘルスケア 事業 (注)2	自己資金運 用事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,067,630	83,070	105,812	—	1,256,513	—	1,256,513
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	1,625	905	—	2,530	△2,530	—
計	1,067,630	84,695	106,718	—	1,259,044	△2,530	1,256,513
セグメント利益又は損失 (△)	273,939	△54,947	△107,131	△1,230	110,630	△154,379	△43,749

- (注) 1. 第1四半期連結会計期間より、従来「証券ソリューション事業」としていた報告セグメントから、「金融ソリューション事業」に名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。
 2. 前第3四半期連結会計期間より、従来「フードサービス事業」としていた報告セグメントから、「ヘルスケア事業」に名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。
 3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△154,379千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に当社の管理部門に係る費用であります。
 4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。